



飯能ロータリークラブ会報



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida



世界に希望を生み出そう

RI会長 **ゴードン R. マッキナリー**

第2570地区ガバナー **高丹秀篤**

第3グループ
ガバナー補佐 **齋藤栄作**

希望を語ろう We are Rotary, together

第3088例会 2023. 10. 25

—— 経済と地域社会の発展月間 ——

天候 曇 (NO. 60-17)

会長 馬場正春 幹事 神田敬文

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 木川(-)君、加藤君

例会場: ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)973-1661 FAX(042)973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 馬場会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・卓話 関田直子様



【会長報告】

次年度60周年の記念事業について森会長エレクトと話をすることで、子どもの現状に向けて何か取り組めないだろうかということになり、内沼県議に相談したところ、関田市議を紹介頂きました。事業の参考となる卓話が頂けたらなと思っております。次年度への足がかりとなるよう本年度テーマも(次年度へ)「希望を繋ごう」とさせて頂きました。周年実行委員長は土屋パスト会長に快くお受け頂き感謝申し上げます。皆様のご協力よろしくお願ひ致します。

木川泰宏会員より退会届が提出。出席できるようになったらいつでも歓迎しますとお伝えしました。

入間南RC11/28公開講演会。ナザリンコ・アンドリー氏「ウクライナの轍を踏むな!」。ご参加下さい。

【幹事報告】

11月のプログラム、前回事務録配付。11/8理事会5階。1990年、WHOに居た尾身茂氏はポリオ根絶のため、まずロータリアンに声をかけ、次に国に働きかけ、10年かけて精力的にアジアを回り、西太平洋地域のポリオを「0」にしたとの記事(日経)。RC全34地区からの募金は960万円に上ったそうです。地区「甦れ2570プロジェクト」1/26大相撲観戦希望の方は11/13締切。5/24~28シンガポール国際大会参加希望の方は仮登録をお願いします。

◎例会変更のお知らせ

◇入間南RC

- ・11/14(火)「こども太鼓体験会」に振替
- ・11/21(火)例会取止め(定款8-1-C)
- ・11/28(火)「オープン例会」に変更 開会18時半「入間市産業文化センター」
- ・12/26(火)「クリスマス家族会」18時「プリーツ・I」

◇所沢RC

- ・11/14(火)振替休会 親睦旅行11/10・11
- ・11/21(火)定款規定により取止め
- ・12/19(火)移動例会 クリスマス会
- ・12/26(火)定款規定により取止め

【委員会報告】

◎ロータリー情報委員会

田辺君

冊子「ロータリーこぼれ話」を手作りしましたのでご一読下さい。11/22(水)18時、入会3年未満および10年未満会員の第1回炉辺会談を開催します。

◎クラブ奉仕委員会

島田君

委員会よりアンケートのお願いです(11/15締切)。重点目標「出席率93%」ですが7~9月、100%以上の出席率の方は6名、70~50%以下が13名。年度末までにMUすれば出席となります。来月からは耳元で囁かせて頂くかもしれません。ご協力お願いします。

◎親睦活動委員会

天ヶ瀬君

報告前にまず御礼を申し上げます。父の葬儀の際には皆様に大変お世話になりました。

12/20「クリスマス家族例会」点鐘18時。会費1万2千円、ご家族様1万円、お子様5千円。申込締切は11/23です。よろしくお願ひします。

◎米山記念奨学委員会

本橋君

本日まで小川晃男パスト会長、馬場正春会長、森健二会長エレクト、本橋勝より、特別寄付を頂戴しました。誠に有難うございました。

【出席報告】MU0・無届欠席1 山口出席向上委員

会員数		当日	
全数	対象	出席数	出席率
64名	4名	54名	84.38%

【ロータリーの友】

鳥居雜誌委員

10月号横組P4、RI会長の重視するメンタルヘルス。10/10は「世界メンタルヘルスデー」。P7~「若者の自立促す支援のカタチ」児童養護施設出身者の実態、支援する卒業生2名と天津中央RCの取組み等。「人を育もう」という企業の考え方が大切。P15~つくば市で「米山学友世界大会」。縦組P4~働く人が減っていく中で、社会的に配慮が必要な方を如何に戦力にしていけるかが重要とのことです。

【SAA報告】

◎ニコニコBOX

- ・ 関田さん、本日は卓話よろしくお願ひ致します。
馬場君、矢島(颯)君、加藤君、内沼君、高橋君
吉澤君、前島君、本橋君
 - ・ 遅刻しました。小川君
 - ・ 早退します。半田君
- 本日計 11,000 円、累計額 280,501 円。
◎ 8 日例会当番は小谷野会員です。

【卓 話】

講師紹介 加藤社会奉仕委員長
飯能市議会議員として副議長も経験され現在 2 期目。原市場ご出身。大学卒業後、軽井沢のホテルや都内のウエディング会社に就職し、宿泊・サービス業に従事。結婚、妊娠を通し、行政への疑問や児童虐待等さまざまな現況を憂慮されるようになり、課題解決および自分と同様の疑問や不安をもつ方の気軽な相談相手になれるよう一念発起して議員になられました。ますます精力的に議員活動をされております。

飯能市内の子ども達の現状と ロータリークラブに期待すること

飯能市議会議員 関田直子様

この10月、埼玉県内では子どもに関して改めて考え直す機会があったのではないかと感じております。

「飯能市要保護児童対策地域協議会」には貧困や虐待を受ける子どもの取り扱いが例年100件程あります。子どもに起こり得る「マイナス因子」は貧困、虐待、核家族、少子化、ヤングケアラー、性被害、いじめ、不登校、情報過多(スマホやタブレット等)、特定妊婦(若年妊娠等)、奨学金返済等さまざまあり、お金だけでなく心の貧困を抱えるお子さんも多いと感じます。

貧困にもさまざまな定義があるのですが、子どもの貧困を表す時には「絶対的貧困」「相対的貧困」という言葉を使います。前者は人間らしい生活ができない戦時下のような状況のこと。後者は国や社会、地域などにおいて大多数より貧しい状態のこと。平均年収より低い年収の家庭に育っている子どもの中には三食きちんと食べられない、修学旅行や塾に行けない、部活の道具が買えない、家が狭い、うるさい、机が無い等あり、この「相対的貧困」の子どもの割合は13.5% 7人に1人となっています(2019年 日本財団調べ)。

貧困になってしまう理由として、まず「低所得者が多い」ことが挙げられます。私の年代頃から非正規雇用が大幅に増え、社会保障が滞ったり、シングル家庭も増加しています。資本主義経済の景気動向や地震・大雨等の自然災害、コロナ禍も大きく家庭の状況に影響し、また、政府がどのように対応するかによっても大きく左右されていくのかなと思います。

シングル家庭の所得はどうしても低いのですが、もう一つ、養育費の未払いも4人に3人、75%が養育費をもらっていないという状況があります。

このままでいくと「所得」「税・社会保障の純負担」「正規職員」はこの表(「現状シナリオ」)のようになりませんが、社会情勢やさまざまな要因を変えた場合は数値が上がります(「改善シナリオ」)。現状では負のスパイラル/親の収入が低い→家庭環境が荒れて勉強に身が入らない→十分な教育が受けられない→進学できない(生活保護世帯の子の進学率が低い)→就職に不利→成人して営む世帯も貧困という傾向にある。この連鎖を断ち切って解消し、同じスタートラインに立てる環境整備が強く求められています。

無垢で産まれてきても親から暴言を浴びたり、お金が無いからあれもこれもやってはダメとなると、子どもは自己肯定感が非常に低くなり、「何のために生まれてきたのか」を子どもながらに考え、生きる力がどんどん失われてしまいます。

理想の社会に向けて我々ができることは何か。それは、安心していられる居場所づくり、信頼できる大人との出会い、学びの機会、さまざまな体験といったことではないでしょうか。

孤食、十分な食事が摂れない等で、2010年頃から



「こども食堂」は広まりました。ただ、貧困の家庭の子だけを集めるのは非常に難しいのです。個人情報であり、貧乏を認めたくないという親の気持ちや、「あの子のうちは貧乏なんだ」という情報がいじめに繋がる場合もある。そのため今は「地域の繋がり」の場としての「こども食堂」という認識です。と言うのも子どもの抱える問題は決して貧困だけ

ではないのです。人の「困っている」というのは案外見え難く、だからこそ皆の場所にする必要があると考えます。親や子の居場所は「こども食堂」のほかにも、放課後の居場所や地域の大人がいるホッとできる居場所、プレイパーク等、市内に数か所あります。

5年前、私の住む地区の学校長が民生委員さんに「あの子は夏休みにごはんを食べられるのかしら」と仰ったそうです。朝ごはん抜きで給食をたくさん食べる子がいる。その民生委員さんから相談を受け、夏休みに早速「こども食堂」をやってみようということになりました。学童クラブに高学年が入れず、安心できる居場所を作りたいとのことで「みんなのいばしょ korokoro」をお母様方と運営させて頂いております。

「居場所」は民間ボランティア、NPOが主体となって、社協、民生委員、学校、企業等と連携・協力して運営されています。現役大学生による「駄菓子屋」。「プレイパーク」では水鉄砲やダンボールハウスといったお金のかからない遊びを楽しむことができます。

行政支援としては国の「こども未来戦略方針」中3・高3模試受験料への補助等に期待しています。親子の「子育て支援拠点」子どもが小さい時に夫の手助けがなく離婚に至るケースも多いので、悩み相談のできる場所です。「学習支援事業」中学生に元教員が無償指導、「相談事業」「奨学金」。養育費をもらうための離婚時の公正証書作成費用への補助は今年度開始。缶詰1個を一晚のおかずにするという家庭もあるそうです。県を通じたNPO事業「フードパントリー」他。

各団体の課題はまず資金面。行政からは基本にお金は頂いておりません。コロナ禍の経済支援(昨年度から各団体に5万円)も継続ではありません。社協や財団等からの助成金で始まって今は持続可能な資金調達が課題です。開催会場も専用の場所があればいつでも開催でき、大きなメリットがあります。空き店舗の有効活用をたくても相談場所が分からない、賃料支払い困難、所有者の理解が得られない等あります。「こども食堂」には近隣から食材の無償提供があるのでありますがもっと地域と繋がりたいという声もある。そして、スタッフの確保。ボランティア活動は人と人がやっているの、全てうまくいくかと言うと決してそういうものではありません。子ども達のことを思って継続的にやれる人材の確保は非常に大切です。

市内の企業や団体の皆様に子どもに関する事業内容を知って頂き、お互いに行えることを話し、マッチングさせたいと思っています。「こども食堂」をやっていた時には「はんきゅう」様からデザート等の食材を無償でご提供頂き大変助かりました。

最後に、皆様へのお願いとしては実際に現場を見て頂きたいのです。「子どもがかわいそうだ」という強い思いで始められた運営者、当事者の方と会って話をして頂き、RCさんならではの何らかの支援をして頂ければ本当に有難いなと思っています。地域の課題に沿った内容で取り組みたくても、居場所をつくるための支援はなかなか受けられず、産後のことやワークライフバランスの問題もある。貧困の家庭に生まれると学資保険にも入れず、奨学金の返済に苦しむこともあります。小さな子に目が行きがちですが、大学を卒業するまで、全体的に見た時に貧困の連鎖があり、それによって心が安定しないお子さんも多くなっているというのが現状です。

飯能にも困難な状況に置かれたお子さんがいるということを改めて知って頂き、飯能市の子ども達には是非力を貸して頂ければと思います。